



No.102

2008.7.

発行 真言宗豊山派
北田山宝泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真琴

お盆あれこれ あ

まとめ

お盆のことについては昭和60年、第10号から書き連ねてきましたが、以来17回、いよいよタネも尽きてようなのでまとめを書くことにします。お盆は各家庭の大事な仏様を年に一度お迎えする供養の機会、盆正月などといわれるように生活に密着した全国的イベントにもなっています。ご先祖様にはこの数日間を気持ちよくお過ごしいただけるようにいろいろなしつらえがあることを繰り返し述べてきました。その一つ一つを(竹、ミソハギ、マコモ、ホオズキetc.)吟味していくとそれらには深い意味があり、施餓鬼の精神が込められ、日本人の豊かな感性と深い知恵を読み取ることができます。

餓鬼とは前世において非常に強欲であったため、その報いとして欲しいものは何一つ手に入らず、絶えずおなかをすかせている存在です。大事な我がご先祖だけではなく広く無縁の餓鬼にまで施しの気持ちを持つとうということをお教えています。

自利利他

ジリ、リタと読みます。仏教では人の生きる道として自利利他を説き、自ら利益を得ることを自利、他人を利益することを利他といい、この両面を兼ね備えることが大乘仏教の理想とされます。「情けは人の為ならず」このところ違う解釈も話題になりますが”情けを掛けるのは他人の為ではなく、結局自分の為ですよ”の意味で、自利利他と同じ意味合いを含みます。まさにお盆は自利利他を実践する機会でもあるのです。

ところで小僧が宝泉寺に晋山する前は小さな福祉施設で働いていました。当時そのような福祉現場は財政面が非常に貧弱で、あらゆる場面で大勢のボランティアの応援は欠かせないものでした。そしてその多くの方は「ここに手伝いに来るのは自分のため」と言い切っていたことをはっきり記憶しています。自らを生き、かつ他者を生かすということがボランティア活動をつうじて会得したのだと思います。自利利他の精神がよくわかる場面です。

最近では投機資金が石油の高騰を呼び、食料さえ投機資金に牛耳られているさまは自利利他を忘れた我利我利亡者の所業といえませんか？

だいはんにゃえ

大般若会に思うこと

小俣 栄佑

春が過ぎて、直ぐそこに梅雨を感じるシーズンになると、寶泉寺で開催される『大般若会』が思い起こします。私たちは年間に行なわれる数多くのイベントを通じて、時の流れを感じ、そこを機会に新たな気持ちになって、拠り所をみつけ生きがいを感じ、目標に向かって夫々が思い進んでいるのではないのでしょうか。毎年私はこの機会を若干遅い新年度を迎えた気持ちでおり、そして私はきっかけを求めている自分自身を強く感じているのです。初めて『大般若会』に出席してビックリした事は、途中で大きな声で沢山ある教本をパラパラと言うよりサラサラと紐解く事でした。その時は大変長そうなお経なので、ご導師も今流行の省エネルギー（エコ対応?）かな...とも思いましたが、よく調べてみると次のような事が解かってきました。

『大般若経』はお釈迦様が説かれたお経で、『大般若波羅蜜多経』の略称、西遊記で名高い三蔵法師様がインドから中国に持ち帰ったお経で、全部で六百巻、サンスクリット語を漢訳したもので、それには4年もの長い期間を要したそうです。

この六百巻を全部読む事は大変長い時間がかかるので、パラパラと翻し心の目で読むことを転読と言い、これがスタンダードな形式であること、だから「大般若転読会」ということが解りました。最後に『一切の大魔を降伏すること最も勝れて成就せり』と喝破されるので、古くからご祈願の法要とされたそうです。

私も毎年参拝し、悪いことがなく無事な一年でありますようにと諸願成就を念じている次第です。そして今年も新しいご祈願のお札を頂戴し、また新たな一年がスタートした気持ちになるのです。

合掌

本堂落慶後十年

梅雨を思わせるような雨のなか10回目の大般若会が厳修され、参詣者のお一人に原稿を寄せていただきました。また先日、また、あるお檀家の法事後こんな会話がありました。

「今年は体の調子が悪く、入院が続き良いことがないと思っていたけど、太鼓の演奏を聴いたら悪いものが体から出ていった気がします」

思いはそれぞれですが、このような気持ちをお聞きするとこちらもうれしくなります。去年から法要の大事な役目を副住職に任せていますが、皆様のご祈願とともに

チベット騒乱やミャンマーのサイクロン、四川大地震被害者への追悼の意が込められていたのも新しい試みでした。

本堂建立という大事業をなし終えあっという間の10年だった感がしておりますが、ちょっと休みたいという思いも心の半分は占めていたように思います。そんなことから宝泉寺にはまだ多くの懸案事項が残されたままで、特に旧本堂をどう残すかは悩みどころです。それと前の道路の拡幅も予定されていると聞いており、境内地全体を見通した検討も迫られることになりそうです。10年目を機に新たな課題に臨みたいと思います。

副 任 職 雑 記

あと2週間あまりで北京オリンピックが開幕します。この数ヵ月、中国は良くも悪くも多くの話題の提供者となりました。なかでも同じ仏教国に暮らす人間として、同じ僧侶として、衝撃的でかつ忘れてはならない出来事がチベット騒乱です。しかしながら農薬混入餃子より身近ではなく、四川省の大地震より大規模ではなかったことから、私たちはこの事件についてあまり多くのことを知りません。

チベットは現在、チベット自治区として中国の一部とされていますが、本来は独立した一国として中国とも長きにわたり良好な関係を築いてきました。それが20世紀の初頭、様々な政治的な理由により中国からの侵攻を受けます。チベット族は古来、「不殺生」の精神を生活の基盤とし武力を持つことのない仏教を信じる民です。ですから中国の侵攻に対して多少の抵抗はしたものの、大人と子供ほどの力の差で圧倒され現在は実質、中国の管理下に置かれているという状態にあります。

そのような状況のなか、今年3月、チベットにおいて僧侶を中心とした大規模な民族解放運動が行われ、たくさんのチベット人が拘束され命を失いました。これが2008年のチベット騒乱です。日本でも、このことに反感を持った人々が様々な活動を行いました。もちろん日本の仏

教界も無関心だったわけではなく、善光寺の聖火リレースタート地点の辞退をはじめ、各地でチベットの平和を（ひいては世界の平和を）訴えるデモ活動が行われ、また騒乱で亡くなった方の追善供養が営まれています。

これらのことを受け、私にも何かできることはないだろうかと考え、かつてドライ・ラマ14世の通訳を任にあたっていたチベット僧の先生を講師に迎え、7月1日、30人ほどの日本の僧侶とともに勉強会を開催しました。先生は私の突然の依頼を笑顔で快諾してくださり、とても実りの大きな勉強会となりました。もっと具体的にチベット人の受けたことに関してお話を伺いたかったのですが先生は一言、つらくて涙なしには語れないとおっしゃっていたのが私にはとても印象的でした。

日本に生まれ生活している私たちにとって、民族間の問題というトピックは、あまり現実的ではありません。しかし、このチベットのような例は、世界にゴマンとあるのが事実です。争いの少ない日本に生きていることを当たり前と思うことなく、そして世界の多くの困難に想いを馳せることのできる、そんな生き方をしようと自分自身に常に言い聞かせています。（了）

墓地内ゴミ処理についてお願い

特にこれからの時期、お盆までは墓地内の剪定枝が大量に出ますので、今年も特別コーナーを外トイレ付近に設けます。それらは山林に持ち込まずに必ずこちらかゴミかごへお持ち下さい。そばに軽トラックがある場合は荷台へ直接の積み込みも結構です。なお一斉墓地清掃日は昨年から停止と致しました。

そして16日、送り盆の際の竹などを含む盆棚お供物類は可燃、危険物などを分別して特別コーナーへお持ち下さい。

盆供、お塔婆の受付

期間 7月31日(木)より8月9日(土)まで

極力この期間内にお願ひ致します。檀徒としてまだご家庭に仏さまのない方にもお納め頂いております。お持ち頂くのは年に一度ぐらいはお互いに顔を合わせたいとの思いです。

ヤマモモ！ご存じですか？

梅雨時、赤黒く熟した実ほおぼると甘酸っぱい果汁が口中に広がります。その味は独特な野趣に富んだ懐かしさを感じさせ、子どもの頃野山で遊んだ記憶をよみがえさせるのです。気候条件からほとんど西日本にしかなく、関東ではお店に並ぶような果物でもありません。街路樹としても植えられ所沢では旧市役所前の通路、東所沢亀ヶ谷交差点近くで見られます。モモとはいえ桃の種類ではなく、そんなヤマモモですが宝泉寺にあり、毎年たわわに実をつけています。何かで読んだ小僧は食べてみたい一心で鉛筆の太さぐらいの苗を植えたのが20数年前でした。

懐かしい思い出をお持ちの方もおられるのではないのでしょうか、ジャムや果実酒もいけるようです。ぜひ皆さんにも味わっていただきたいのです。

場所は庫裏裏玄関そば、時期は6月中下旬、熟すとすぐ落ちてしまい、わずかの期間しかありません。来年は是非どうぞ！

「やまももの 落つる音無し 五月雨」こんな芭蕉の句がありました。

編集後記

・6月が比較的涼しかったからか、サルズベリや蓮の花の開花が遅かったようです。しかし梅雨明けとともにきれいな花を見せています。

・ガソリンや石油の値上がりで暮らしぶりにも変化の兆し、車は売れないがお米が売れ始めたとの報道が、もしかしたら日本の食糧自給率もあがるかもしれない。

もったいない廃棄食料がちゃんと国民の胃に入っていけばより一層あがるはず。

・この春「ねんきん特別便」が来て我が年齢を再認識した次第、漏れが発見され、当然修正の返事をしたが先般また同様の手紙がきてまた同じことの繰り返し、むだづかい体質は未だにそのままのようです。